

実習生が用意しました)をつけると、本屋さんで売っているようなすてきな絵本になりました。

六年生の子どもは「なんでもあきらめ、尻尾を切って逃げるとかけ」、「肉食が大好きだから恐竜」、「力が強く目つきが悪いからライオン」など自分の特徴を見つけて絵本作りに取り組みました。

このテーマは子どもだけでなく、地域の人たちにも学生たちにも好評で、それぞれ自分を見つめておもしろい絵本を作ることができました。

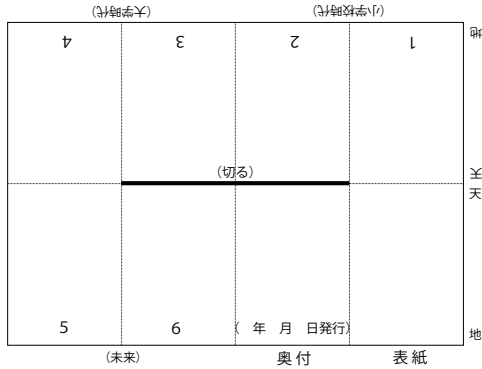
三・一枚の紙から絵本を作る

一枚の紙を折って切る方法

新学期になり新しい友だちと出会う時に、自分の特徴を絵と短い文章で自己紹介する絵本があれば和やかに会話が弾みます。十五分ほどあれば作ることができず。

まず、A3用紙をひとりに一枚ずつ渡します。それを机の上に横長に置き、四隅を合わせて二分の一の長方形に折ります。これをさらに左右から畳み込んで、四つの小さな長方形に折ります。

一度開いて八つの長方形ができていることを確かめます。右端、左端の長方形



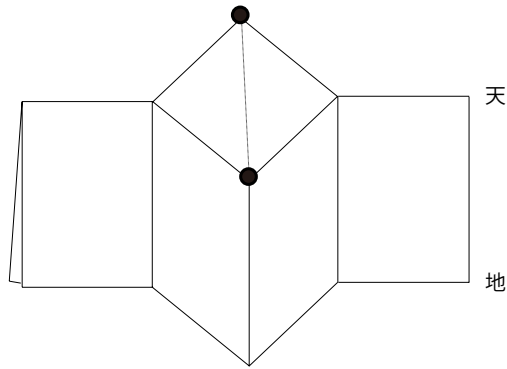
A3の紙の折り方と切り方

はそのままにして、真ん中の線の部分を切ります。切った真ん中のところをつまんで左右に開き、残りの部分を合わせると八ページ分のミニ絵本の用意ができます。表紙には自分の自画像を描き、次のページには自分の特徴を絵と短い文で描くことができあがりです。

大学生の自己紹介絵本

「初等教科教育法 図画工作」の授業は、小学校教員免許に必修で、百人ほどの受講生がいます。最初の授業でお互いのことを知るために、一枚の紙で自己紹介絵本を作ります。A3の紙（縦三十センチ・横四十二センチ）に図のようにページ番号と「表紙」「奥付」を書きます。一ページから二ページは小学校時代の自分、三ページから四ページは大学時代の今の自分、五ページから六ページは未来の自分を描き、短い文章を書き入れます。表紙のページには自画像を描き名前を書きます。奥付のページには、制作した年月日、自分の学籍番号と専修・氏名を書き、自分のシンボルマークをデザインして描きます。

鉛筆で描くと消してはかりで前に進みません。そこではじめにボールペンで輪郭線を描き、つぎに色鉛筆で色を塗ります。できあがったらまわりの人たちと交換してお互いのことを紹介します。



真ん中のところ(●)をつまんで左右に開く

「遠足のしおり」と「メモ・スケッチ帳」

遠足のしおりは大きすぎると邪魔になります。そこでA3の紙をハページになるように折ります。そして中の四ページ分のところに切り目を入れます。そして真ん中をつまんで左右に開き、折り目をかえると簡単な本のかたちになります。天地を考えページをふって絵を描くと、遠足のしおりになるのです。この原本をもとにコピーをすれば一クラス分がすぐにできあがります。

子どもが遠足にいった先で、見たもの聞いたことをメモしたりスケッチしたりする時にも、この「一枚の紙」は役に立ちます。八枚の紙の厚みになるので鉛筆で記入することもできます。ポケットに入れて持ち運びができます。博物館や美術館ではボールペンは使用禁止で鉛筆を使います。

四・折れ本型絵本を作る

日本の絵巻物は、和紙を糊で継ぎ足し長い巻紙にして絵を描いたものです。学校で使う四つ切りか八つ切りの画用紙のように、決められた画面に描くのと違い、自分が必要な長さで自由に絵を描く楽しさは格別です。絵巻では時間と空間の広がりを描くことができます。しかし、巻物の状